

令和3年度 燕市一般会計(普通会計)決算の概要

- 令和3年度の一般会計(普通会計)決算は、歳入が前年度比55億5,448万8千円減の440億1,656万1千円、歳出が62億7,553万8千円減の418億6,351万9千円で、形式収支は21億5,304万2千円となり、形式収支から翌年度の繰越財源を控除した実質収支(繰越金)は前年度比6億935万8千円増の19億7,930万5千円となりました。
- 実質収支の増減を表す単年度収支から財政調整基金の積立・取崩を加減した実質単年度収支は、前年度比7億8,210万6千円増の12億4,084万1千円となりました。
- 財政調整基金残高は、前年度末から6億3,148万3千円増の31億8,406万9千円となっています。

区 分	令和3年度	令和2年度	比 較	歳入歳出の主な増減内訳
歳 入	440億1,656万1千円	495億7,104万9千円	▲ 55億5,448万8千円	【歳入】 国庫支出金 ▲ 59億1,566万9千円 寄 附 金 ▲ 5億4,164万9千円 財 産 収 入 ▲ 5億1,760万7千円 地方交付税 + 8億1,398万4千円 繰 越 金 + 3億3,349万9千円 【歳出】 補 助 費 等 ▲ 76億4,275万8千円 積 立 金 ▲ 6億1,592万3千円 扶 助 費 + 17億2,193万2千円 物 件 費 + 3億4,139万5千円 投資的経費 + 2億8,188万4千円
歳 出	418億6,351万9千円	481億3,904万9千円	▲ 62億7,553万円	
形式収支	21億5,304万2千円	14億3,200万円	+ 7億2,104万2千円	
翌年度繰越財源	1億7,373万7千円	6,205万3千円	+ 1億1,168万4千円	
実質収支(繰越金)	19億7,930万5千円	13億6,994万7千円	+ 6億 935万8千円	
単年度収支	6億 935万8千円	3億7,075万8千円	+ 2億3,860万円	
積立金+繰上償還	26億5,793万3千円	25億7,395万2千円	+ 8,398万1千円	
積立金取崩額	20億2,645万円	24億8,597万5千円	▲ 4億5,952万5千円	
実質単年度収支	12億4,084万1千円	4億5,873万5千円	+ 7億8,210万6千円	
財政調整基金残高	31億8,406万9千円	25億5,258万6千円	+ 6億3,148万3千円	

【令和3年度決算のポイント】

- 令和3年度決算は、合併後最大となった前年度から減少したものの、引き続き新型コロナウイルス感染症対策に係る経費が多額となったことから、前年度に次ぐ2番目の決算規模となりました。なお、感染症対策に関連する決算額を除くと4番目の決算規模となります。
 ※ 感染症対策に係る歳出決算額：約42.8億円(国県の感染症対策事業(100%補助)：約27.9億円、感染拡大防止対策約7.3億円、その他の感染症対策：約7.6億円)
- 感染症対策には国の交付金等を最大限活用したことや、感染症の影響による事業等の中止・縮小等に伴い支出が抑えられたことに加え、国補正に伴う普通交付税の追加交付といった例年ない措置があったことにより、財政調整基金に積み増しをしたうえで、実質収支(繰越金)も黒字を確保しました。

【令和4年度以降の財政動向】

- 依然として感染症が拡大しており、市税など歳入の減少が懸念されるほか、感染症対策と社会経済活動との両立をはじめ、急速に進展しているデジタル社会や脱炭素社会、SDGsの推進など社会環境の変化にも対応して取り組む必要があり、新たな行政需要に伴う歳出増が見込まれます。
- 令和4年度6月補正後の財政調整基金残高は、当初予算や補正予算の財源としての活用により12億6,345万3千円(令和3年度末残高比▲19億2,061万6千円)となりましたが、今後、繰越金等を活用して積み戻していく予定です。